

< 栃木のケアニン～わくわく・楽・学～の会 / 栃木県介護福祉士会 様 >

上映日:2018/01/14(日) 場所:黒磯文化会館 大ホール(栃木県那須塩原市)



実行委員会・ボランティア・関係者のみなさん



受付と会場の様子 2回上映で合計869名が来場

上映会に至る準備や広報の中で、地域の人たちが繋がっていくプロセスがとても大切

●上映会を開催するに至った経緯を教えてください。

ケアニンサポーターとして、ひとりでも多くの市民(老若男女)と一緒に、この映画を共有したいと考えていました。そして、映画ケアニンの栃木県上映を楽しみに待っていた仲間たちがいました。

栃木県内の映画館上映が無いままに夏が過ぎて、10月からの自主上映が可能になるのを待って、「栃木のケアニン～わくわく・楽・学～の会」は、9月17日の「RUN伴とちぎ2017」が終了するとすぐに、RUN伴とちぎの仲間たち+αでオールとちぎの実行委員会を組織して、動き出しました。

●実行委員会は、どのようなメンバーでしょうか？

日頃から地域で顔のつながっている医療・介護・福祉職・ボランティア・市民活動の仲間たち、RUN伴とちぎのメンバーなど、専門職から市民まで、20代から70代まで約20名です。

●協力の得られた団体はありましたか？

後援、協賛、協力については、実行委員がそれぞれのつながりの中でお声掛けして様々な団体やお店のご理解をいただきました。結果、後援が自治体や社協等10団体、協賛(協賛金)が24団体、協力団体(団体ホームページで案内広報)が2団体となりました。

●資金はどのように捻出しましたか？

資金ゼロからの出発です。助成金、補助金は時期的に間に合わず、入場チケットからの回収と協賛金による運営を目指しました。実行委員会で何度も話し合いをしました。

●地域へどのように告知をしましたか？

市の広報や新聞掲載による広報は開催1か月を切ってから、2ヶ月前からはFacebookやメーリングリスト、ホームページなどのSNSを活用しました。広報チラシを様々な地域の集まりや専門職の研修会、地元小中高校に配布しました。実行委員から直接の顔の見える案内とチラシ手渡しが一番入場者につながりました。

●上映会開催の感想や当日の様子を教えてください。

上映会開催に至る準備や広報活動の中で、目的を共有した地域の人たちがつながっていく、このプロセスがとても大切なことと感じました。

当日は、映画2回上映の間に、あおいけあの加藤忠相さんの講演会がありました。映画を観て講演を聴いて、参加者の半数を超える方がアンケートを書けました。この映画を観た人それぞれの立場から、この映画を観て気づくこと、学ぶこと、伝わるメッセージがあったことを再確認しました。

また、車椅子利用等の身体障害をお持ちの方はもちろんのこと、視覚障害や聴覚障害をお持ちの方も一緒に映画と講演を楽しんでいただきたいとバリアフリーの上映会&講演会を企画・準備しました。映画は日本語字幕、副音声付き、案内メッセージや講演会は、アプリを利用して、音声をスマホ等に文字化して見るという環境やヒアリンググループ(磁気ループ)優先席を設けて、障害のある人たちを迎えました。

栃木県で初めてのケアニン上映会、県内各地で「私たちのまちでもケアニン上映会をしたい」という声と動きが上映直後から聞こえています。

●今後、上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

わたしたちの実行委員会は、初めから地域の多くの皆さん(老若男女)に、この映画を観ていただきたい、一緒に時間を共有したいという思いで動き出しました。実行委員とボランティアと、当日の準備や運営にかかわった仲間たちが50名余、おかげさまで、2回の上映で900名近い皆さんとこの映画を観賞することが出来ました。

ご担当者: 栃木のケアニン～わくわく・楽・学～の会 代表・事務局
ゆいの里 飯島恵子さん

栃木のケアニン～わくわく・楽・学～の会は、県内の仲間や団体をつなぎ、団体名の通り、ケアニンがわくわく楽しみながら学びつつ仕事や活動ができるための支援を行います。